＊＊　巻頭言　＊＊

「多様な連携」を推進する「工業技術」の出版

Publication of "Industrial Technology" promotes various types of collaborative research in Toyo University

工業技術研究所所長（理工学部　応用化学科　教授）　勝亦　徹

「工業技術」も今年で第 43 号を迎えることができました。これも皆様のご支援の賜物と感謝しております。ご寄稿いただいた著者の皆様ならびに編集委員の皆様、ご愛読いただいている皆様にお礼申し上げます。

工業技術研究所は創設以来、大学の理念である「哲学」を基盤として「産学協同」と「開かれた大学」の実現を目標として活動を続けて来ました。研究所の目標である「産学協同」は時代の変化とともに、より多様な協力関係の下で研究を遂行するための「産学連携」や「産学官連携」あるいは金融機関を含めた「産学官金連携」へと連携内容と連携先を拡大してきました。もちろん、これらの「多様な連携」の基盤が工業技術研究所の研究員の多様性と相互の連携にあることは言うまでもありません。「工業技術」は「開かれた大学」を具現化するために工業技術研究所の成果を公表するための手段として機能してきました。今後も「多様な連携」と「開かれた大学」を実現するための情報提供の場として重要な役割を担って行きます。

これからの「工業技術」は、紙媒体と併行して Web 上で出版することも重要な選択肢です。「工業技術」（ISSN1349-9955）は東洋大学リポジトリを通じて公開されており、doi 番号も付与されていますので、より利用しやすい出版物を目指す良い機会と思われます。これは国際化にも有効と思われますが、既に実施している英文目次の掲載や英文題目の併記に加えて、英文抄録を併記することも必要になります。良質な原稿の投稿を奨励するなど、これまで以上に「工業技術」の「質」の向上が求められます。一方で、「工業技術」は、大学の附設研究所の出版物でありますから、「研究成果の発信」とともに「教育へのフィードバック」が求められます。学生諸君や企業の若手技術者の皆様に、有益でわかりやすい技術解説を提供することも必要と思われます。

「多様な連携」と「教育」の両立のために、基本理念に基づいた、ゆるがない「工業技術」の出版姿勢がますます重要になると思われます。東洋大学は哲学を基盤として、「考える」ことを理念として設立されました。コロナ禍の中にあって「考えて行動すること」の重要さが再認識されているからでしょうか、学祖井上円了先生を特集した番組が何度も放送されています。重要な連携先である産業界の理念としては渋沢栄一の「道徳と経済の合一」などがあげられます。深谷駅から北東に４ｋｍほど、利根川近くの血洗島周辺に記念館や生家が点在しています。「日本資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一は、来年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公であり、新一万円札の顔になるようです。

工業技術研究所が実施する「多様な連携」の目的は、「人間に本質的に備わっている道徳と深く考える哲学を基盤として、ものづくりの知識と考える力を活用し、多様性を尊重しながらさまざまな連携を通じて社会の持続可能な発展に貢献する。」ということに集約されます。身近で具体的な課題としては、感染症や公衆衛生、人々の健康、上水・下水を含めた水や食環境、地球温暖化や気候変動、エネルギーやリサイクルなどがあり、情報・通信の高度化、AI データサイエンスや材料科学、ものづくりの分野にも多くの課題が山積しています。「工業技術」には、これらの多様な課題に対する研究成果とともに、諸問題の解決につながる教育的な内容の発信も求められます。東洋大学の校歌にあるように、まさに「務（つとめ）は重し」であります。